

なめがた大使 小林光恵さん 書きおろしエッセイ
五感でキャッチ！なめがた漫遊記 第26回

コイの季節？

物心がついたときには、鯉のうま煮が好きになっていった。

1968年に発売されて大ヒットした「恋の季節」(唄・ピンキーとキラーズ)という曲中の歌詞「恋はー私の恋はー」の恋が、自動的に鯉に置き換えられ、歌うときには鯉のうま煮が私の頭の中に浮かんだものだった。

例えば、いとこたちと泊ったとき。並んで布団に仰向けになり、みんなして大声でこの曲を歌ったのだが、例によって口では恋と言いながらも、頭の中では「鯉はー私の鯉はー」となっており、天井の木目が鯉のうま煮に見えてきたことをよく覚えていた。

鯉のうま煮が好物だと、家族内では有名だった。私が実家を出てからは、帰省の際に母がよく鯉のうま煮を用意してくれていたものだった。

そして母がいない今は、疲れを感じたときなどに、道の駅たまつくりの観光物産館こいこいに買いに行く。高タンパク・低脂質でビタミンB群や鉄分、ミネラルも豊富に含まれるため、薬用魚とも言われる。

行方市のホームページ内で帰省メシの連載をしている関係で、私が楽しみにしている帰省メシを問われることがあり、これ、というものがぱっと出でこず「煮あずきとかかなー」などと答えるのだが、考えてみれば、鯉のうま煮があったのだ。

実は私、お目当ては真子であって、

それが鯉のうま煮は魅力が十分の一ほどになってしまふ。そんな人が少なくないのか、あるいは別の事情があるのか、最近、その真子のみを煮たものが行方の某所で販売されていると聞いた。買いに行きたい。しかし、真子だけを食するのは、鯉に申し訳ないような、背徳感が生じてくるような気がする。また行動には移せていないのだ。でも、たまたま行って同じことでは？なんて考えたりもして。

こんな話を北海道出身の友人にしていたら、彼女に「鯉の季節、匂っていつ？」と問われ、首をかしげてしまった。5月の節句あたりは確実に季節だと思いが、こいこいにはほぼ年中売っている気がするし。

好きな相手でも、いや、好きな相手だからこそか、案外その相手のことを知らないものなのかもね、と思った次第です。ところで、鯉を連想する歌詞を有する曲がもう一つある。「それでも恋は恋」。曲名、わかりますか？



小林 光恵さん

鯉の語源は、体が肥えていること、または味が肥えていることに由来しているとか。

行方市出身。つくば市二の宮在住。在りし日の母は、ホーロー製の白の四角いバットをよく使っていました。鯉のうま煮を並べたり、寒天寄せを作ったり。もらい受けて台所にありますが、まだ使ったことがありません。

市公式ホームページ内で「行方帰省メシ」連載中。サイトはこちらから▶



地域おこし協力隊

連載コラム②⑥

皆さんこんにちは。地域おこし協力隊のダシカです。

着任してから、早くも4カ月が経ちました。この間、外国免許の切り替えをする必要があり、買い物などの移動は基本的に自転車に頼っています。

行方市は南北に約24km、東西に約12kmと広がっていますが、私は霞ヶ浦ふれあいランドやなめがた地域医療センター、潮来駅、さらには稲敷市のショッピングモールまで、自転車で出かけたことがあります。普段の生活圏はおよそ5kmで完結するため、都内での自転車生活に慣れてくれた私には苦になりません。それどころか、風を切って走る爽快感や、行動範囲が広がる自由さを思い切り楽しんでます。

本市には、サイクリングロードも整備されており、長距離の移動や坂道、さまざまなロードが楽しめるのも魅力です。最近、自動車では決して味わえない、まちや住民の生活の息づかいを肌で感じられる絶好の機会だということに気付きました。

自転車で乗っていると、街並みや景観を楽しみながら、住民の方々のあいさつも自然に交わすことができます。田植えや季節の移ろいなど、日常の風景を目にするたびに、新しい発見



▲サ・ダシカ 隊員

【令和8年2月1日～現職】
 企業誘致の際などに企業が求める人材ニーズ調査や、これまで交流を深めてきたモンゴルの自治体・教育機関と連携を図っています。本名は、サンダグドルジ・ダシツェレン

とわくわく感が広がります。これからも、なるべく自転車で旅することを心がけたいと思っています。次はぜひ、北浦周辺を一周してみたいです。

(次号は、佐藤隊員が担当します。)



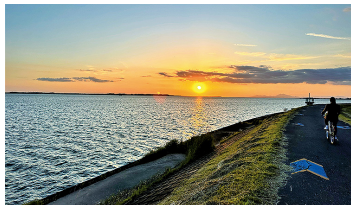
▲サイクリングロードから見える富士山(3月14日)



▲田植えを終えたばかりの田んぼ(5月5日)



▲北利根橋からの霞ヶ浦(5月9日)



▲サイクリングロードでの夕焼け(5月11日)